

生体における微粒子の機能と制御
2018 年度採択研究者

| |
|------------------|
| 2020 年度 年次報告書 |
|------------------|

江口 暁子

三重大学大学院 医学系研究科
講師 (研究担当)

遠隔臓器間の病態伝播を担う内在性微粒子 microparticle の機能解明

§ 1. 研究成果の概要

肝疾患においてサルコペニア合併患者は予後不良であることや、肝硬変で肝性脳症を合併することが知られていますが、分子メカニズムの全容は不明です。そこで慢性肝疾患マウスを用いて慢性肝疾患において遠隔臓器に合併症が起こる分子メカニズムを明らかにすることを目標とします。本研究では、慢性肝疾患マウスモデルの構築を行い、慢性肝疾患マウスでは血中の微粒子が増加することや、遠隔臓器で障害が発生することを明らかにしました。微粒子による効果を検証するために、培養肝細胞に脂肪毒性を与えた障害肝細胞から微粒子を回収し標的細胞の活性化を検討したところ、微粒子により標的細胞の活性化がおこることを明らかにしました。今後さらなる検証が必要ですが、障害肝細胞からの微粒子が病態進行に寄与していることが示唆されました。